【第2回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会開催報告

開催日時:令和8年7月 28 日(火)19 時開会
開催場所:世代間交流センター

1 開　　会
事務局　庶務　吉田寛臣

2 委員長挨拶
細田委員長
熊本で大きな地震がありました。あらためて災害に強い施設、防災機能を備えた施設の必要性を実感したところです。本日は 10 月の基本構想の取りまとめに向けての会議になります。御影にどんな施設、機能が必要か、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

3 議　題
「御影地区の今後のまちづくりの方向性と施設のあり方」について

(コーディネーター　KITABA 酒本)

本日は「まちづくりの方向性と施設のあり方」について検討します。前回色々な機能があると良いという話が出た中で、内向きの施設にするのか、外からも人が来るような施設にするのか、そこを一度議論する必要があるというところで終わっています。その点も含めて、これからの複合施設の機能を検討していきたいと思います。

**－第 1 回検討委員会（6 月 29 日）で出された意見の整理－**

・既存施設の老朽化を踏まえ、御影地区全体の公共施設のあり方を検討する必要があるという点は共有されました。
・新しい施設には、地域の行事や集会に対応する公民館機能、消防機能、防災機能は最低限必要というご意見がありました。一方で、人口減少や高齢化社会を踏まえ、過大な施設とならないよう規模や機能を検討する必要があるのではないか、という意見もありました。
・若い世代や子育て世代を御影に呼び込むため、室内遊具施設や親子の居場所、カフェ、イベントスペースなども検討していく必要があるのではないかという意見がありました。
・フットサルなど地域資源との連携により、御影の経済や賑わいづくりも考えていく必要があるのではないかという意見もありました。

・内向き重視でいくか、外向きも考えるか（外向き＝外から訪れて利用してもらう施設）、この重み付けによって施設の中身が大きく変わる、というところで前回は締めくくられました。

**－現在の施設の利用状況－**

・公民館：現在は主に大集会室の利用が中心で、稼働率が高くなっています。一方、講義室や 2 階の和室・調理室は稼働がやや低い状況です。今後、どこまでの機能を導入するかが議論の中心になると考えられます。

・改善センター：多目的ホールの稼働が非常に高い一方、2 階の研修室・会議室にはやや余力があります。公民館の会議室・研修室も利用頻度が低いことを踏まえると、改善センターと統合しても良いのではないか、というのも検討材料になります。

・世代間交流センター：利用者層は多彩ですが、令和 7 年度の利用は 240 件・2,786 人で、前年度の 292 件・4,007 人と比べ、件数・人数とも減少傾向にあります。利用内容はスポーツ団体が最も多くなっています。この機能を残しつつ複合施設とするか、複合施設に機能ごと盛り込むかが議論のポイントです。

**－施設の老朽化の状況－**

御影の既存施設は、公民館が築 50 年以上、世代間交流センターが 35 年、改善センターが 41 年で、いずれも老朽化が進んでいます。特に公民館は築 50 年以上で、老朽化が最も進んでいます。一方、利用状況を見ると、公民館の大集会室、改善センターの多目的ホール、世代間交流センターのスポーツ広場などは利用頻度が高く、会議室・和室・調理室・講義室などは利用に余裕があります。この点の見直しが、複合化を考える上でのポイントになります。

**－検討すべき機能－**

これまでの意見を踏まえると、子どもから高齢者までが日常的に利用し、多世代がより交流できる施設が求められていると感じます。整理すると次のような機能が考えられます。

・支所機能：公民館を廃止するとしても、支所機能は残してほしいというご意見があり、複合施設に組み込む方向が考えられます。
・多目的ホール機能：地域行事や軽スポーツ、健康づくり、災害時対応を想定した機能。既存施設を改修して使うか、新設するかがポイントです。
・子育て支援機能：前回、子育て世代向けの機能について多くのご意見があり、どこまでの機能を持たせるか検討が必要です。

・高齢者の健康づくり、福祉活動機能
・町内会、サークル活動を支える多目的活動機能
・交流ロビー（予約なしでも気軽に立ち寄れる場）カフェなどが入ることも想定されます。。
・創作スペース（陶芸や工作など）、災害時の炊き出し対応
・室内遊戯施設：大規模なものは今回の複合施設では難しいと考えられますが、必要性については町との調整次第です。

まとめると、検討すべき点は次の通りです。支所、消防、地域行事・軽スポーツに対応する施設を基本機能とし、それに防災拠点機能を加えること。会議室系（和室・調理室など）の機能再編をどこまで行うか。気軽に立ち寄れる日常利用をどう実現するか。そして、子どもだけ・高齢者だけに偏らない多世代交流をどう促すか（子どもには中学生も含む）、子育て機能をどの程度持たせるかという点です。

基本機能（支所、消防、多目的ホール、交流ロビー）に加え、子育て支援機能、創作活動機能、高齢者を支える福祉的機能をプラスアルファとして検討するという整理になります。

なお、資料 11 ページから 13 ページで紹介した周辺の大型子ども向け施設（北海道が整備したものなど）は、参考として紹介したものであり、同規模のものを目指す趣旨ではありません。数億～20 億円規模になるため、現実的には難しいと考えられます。

本日は、この整理した機能について、今後の御影を見据えてどの機能を充実させるべきか、具体的にどのようなイメージかご意見をいただきたいと思います。機能が固まれば、必要な面積、施設の規模を推計できるようになります。

**－意見交換－**

**（委員）**：多世代交流について、子どもや高齢者が 1 人・2 人でも気軽に来られて、そこでいろいろな交流ができる施設がよいと思います。今、改善センターにある図書機能についても、すべての本が活用されている訳ではないので、本当に必要な本だけを公民館のに置いて、誰もが本を読める機能があるとよいと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：図書機能は交流ロビーなどに組み込む形で、気軽に手に取れるようにするイメージですね。多世代交流、図書機能、気軽に来られること、この 3 点がポイントということでした。

**（委員）**：公民館の大集会室では、年に数回、芸術文化祭など大きなイベントを行っており、200 人規模の人が集まります。御影こども園の発表会も同様です。そのため、それだけの規模が入る施設とステージ、音響設備は必要だと思います。また芸術文化祭では展示も行うため、展示スペースも必要だと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：多目的ホール機能はやはり必要で、200 人規模が入る現在の大集会室程度の規模は必要、ということですね。

**（委員）**：今回の施設について、消防と公民館が 1 つの建物に入るという前提で話が進んでいますが、消防と一緒にしてよいのかどうかという議論はまだされていないと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：機能がある程度固まった段階で、次回レイアウトのイメージをお示ししたいと考えています。今日はその手前の、機能についてのご意見をいただければと思います。

**（委員）**：改善センターの図書機能を公民館側に移すということは、最終的に改善センターの図書コーナーは無くすという意味でしょうか。

**（委員）**：最終的には無くなってもよいのではないかと考えています。今の貸出状況を見ても大量の蔵書が必要という訳ではないので、本当に必要なものだけ最初に用意する程度でよいと思います。

**（委員）**：改善センターを残しつつ、世代間交流センターの機能もそのまま生かしていくという考え方であれば、公民館側の機能をそこまで減らす必要はないのでは、という意見もあります。ただ人口が減っている中で、御影地区全体としてどう構想していくのか、前提を整理しないと難しいのではないかと思います。

**（委員）**：子どもたちがこれから増えていく可能性は正直高くないと思います。前回、住宅団地を作るという話もありましたが、それが無いのであれば空き地に住宅が張り付く程度で、住宅減少はますます進んでいくでしょう。地域全体として今後どう残っていくかという大きな構想の中で、この施設の議論も出てくるはずです。今回だけでこれを決めてしまうのは疑問が残ります。ただ、これを機会に、町内会や各団体がそれぞれの立場で必要なことを持ち帰り、フィードバックする形を取らないといけないと思います。10 月までに決めるスケジュールは分かりますが、多少時間をかけてでも、御影地区全体の構想を練った方がよいのではないでしょうか。

**（事務局・コーディネーター）**：複合施設の機能を考える前に、御影全体を今後どうしていくのかをしっかり見据えるべき、というご意見でした。改善センターや世代間交流センターを残して使いながら考えるという選択肢も含め、御影の将来像を考えてから複合施設の機能を検討した方がよいのではないか、というご意見です。今日ここで結論を出す必要はありませんが、御影の将来像についてのご意見もぜひいただきたいと思います。人口減少・高齢化社会はどの地域でも進みますが、その中で受け身でいくのか、積極的に手を打つのかによって、複合施設に必要な機能も変わってきます。

**（委員）**：町の方針自体がまだ見えていません。逆に、ここで話し合った意見をまとめて町にあげていく、10 月か 11 月にある町の懇談会に向けて質問をぶつけ、回答をもらうということを早めにやってもよいのではないかと思います。基本構想を含め、このまま 2～3 か月で決めてしまうと、地域の皆さんがよく分からないうちに計画が進んでしまいます。時間はかかるかもしれませんが、各団体や地域づくりの中で話し合うプロセスも必要ではないかと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：順調に進めば 10 月と申し上げていましたが、御影の将来像をもっと議論したいということであれば、10 月にこだわらず議論するというご判断があってもよいと思います。報道では令和 11 年度工事着工とされていますが、この場で急がずに将来像をしっかり考えるという判断であれば、否定するものではありません。

**（委員）**：前回、子育てに関する話の中で、外部から人を呼ぶか、内部で居心地のよい場所を作るかという論点がありました。私自身、御影に移住してから子どもが生まれ子育て世代になりましたが、暮らしてみると、小さな町ながらとても暮らしやすく、不便に感じたことはありません。買い物、郵便局、コンビニなど生活に必要なものは揃っており、強いて言えば、子ども用おむつが急になくなったときにドラッグストアがもう少し近いとよいと思うくらいです。子育て機能を大きな施設にすると、町外からもわざわざ人が来るようになりますが、それを住民の皆さんが望んでいるかは疑問です。気軽に行ける場所として作ったつもりが、いつ行っても混んでいて気軽に行きづらくなってしまうこともあり得ます。大き過ぎず小さ過ぎず、御影の子育て世代が少し立ち寄って、子どもを遊ばせてお昼には帰る、というくらいの気軽なスポットがよいのではないかと思います。他の保護者の意見も取りまとめて、また次回持ってこられればと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：外向きか内向きかという点では、御影のちょうどよいサイズ感を大事にし、外から人をたくさん呼ぶというより、御影に住む子育て世代が気軽に立ち寄れる機能を充実させることが大事、というご意見でした。

**（委員）**：大集会室については現在の広さがやはり必要だと思いますが、他の会議室は利用率が低いとのことなので、可動式の間仕切り壁などで、全体を使わないときは小さく区切って使えるようにするとよいと思います。

**（委員）**：もう少しいろいろな方の意見を聞いた方がよいと思います。私自身、1 歳前後の娘がいて、移住してきたばかりの同世代と話す機会が多いのですが、こうした施設が検討されていること自体を知らない方も多いです。このままでは地域は衰退していく面もあると思いますが、自分の子どもが小学校に上がる頃に学校があるのか、同学年の子どもが何人いるのか、という不安を同世代の親たちとよく話します。この施設が、衰退していく中での延命措置なのか、それとも御影地区として新たな価値を生み出す拠点になるのか、という点がとても重要だと思います。個人的には御影が好きで、不便も感じていないので、この地域の良さを生かしながら、移住してくれる人が増えたらよいと思っています。ただ、費用も安くはなく、町内には他にも直すべき施設がたくさんある中で、ここを直し

て使っていくという位置づけだと思うので、今の施設に不満があった訳でも、機能として必要かどうかを考えたこともなかった、というのが率直なところです。同じものを作るのがよいのか難しいところもあると感じます。

**（事務局・コーディネーター）**：お子さんをお持ちの世代の方々が、新しく入ってくる同世代の方々ともっとつながりたいという思いと、この検討自体がまだあまり知られていないので周知していく必要があるという点、そして御影に住む人たちにとって価値の高い施設にする必要がある、というご意見でした。

**（委員）**：場所の問題が気になっています。私はスケート協会会長も務めており、グランドが狭くなると 400 メートルリンクの規模を縮小せざるを得なくなります。御影地区では毎年花火大会をグラウンドで行っており、縮小されれば花火大会も難しくなります。また公民館前の駐車場は花見・お祭り・盆踊りのイベント広場として年 3 回使っており、こうした会場がなくなると、地域の元気を支えている行事ができなくなってしまいます。公民館の規模をそのまま維持するなら、一度改善センターに支所機能を仮移転させ、既存の公民館を解体してから同じ場所に建て替える方法や、あるいは全く別の場所（アリーナなど）に建てる方法であれば、グラウンドと広場を残せると思います。また、将来的に町がまちづくりを地域主体で担っていく時代が来るとすれば、支所の職員数や規模も今後変わってくるかもしれません。図書機能を公民館に持ってくるなら、改善センターの図書コーナーは完全になくして 1 か所に集約した方がよいと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：グラウンドと広場はイベントに欠かせない貴重な場所なので、できるだけ残すべきというご意見でした。また支所機能を今後もそのまま維持するのか、地域主体の運営に移行していくのか、という点も論点になります。札幌市の「まちづくりセンター」の例では、市の職員が所長として常駐する形と、地域住民が自主運営する形があります。御影でも将来そうした柔軟な運営形態があり得るかもしれません。

**（委員）**：子どもが年中の頃に御影に引っ越してきましたが、実際に使った施設を振り返ると、公民館の図書館は子ども向けの本があまりなく、清水町の図書館まで借りに行くことが多かったです。改善センターの体育館スペースは子どもと週末に利用しましたが、貸し切りなどで使えないこともありました。今後、こうした機能がどれだけ必要になるかを見極める必要があると思います。例えば体育館機能は、小中学校の体育館を週末に代替利用できるのであれば、将来的にスリム化できる部分もあるのではないかと思います。ある程度のスペースは確保しつつ、他の既存施設としっかり連携して活用していくのがよいと思います。

**（委員）**：支所機能を縮小するという意見もありましたが、私はむしろ縮小すべきではないと考えます。今の窓口機能をなくしてしまうと、清水町役場本庁まで手続きに行かなければならなくなり、若い人はまだしも、お年寄りが住み続けられなくなってしまいます。支所の業務は増やす必要はありませんが、最低限、今の機能は維持すべきだと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：皆さん、御影の将来像をもう少し考えてからでもよいのではないか、という点で一致していたかと思います。ここで少しお聞きしたいのですが、なぜ皆さんは御影に移住されたのでしょうか。どのような点に御影のよさを感じていますか。

**（委員）**：ゆったりしている点です。人も空間も両方です。

**（委員）**：前は東京にいましたが、そうした土地とは違い、御影は地域の人たちが温かいと感じます。仕事柄いろいろな土地を見てきましたが、そういうつながりのある場所は多くありません。アクセスの面でも、清水や帯広へ行きやすく、非常に使いやすいと感じています。

**（委員）**：暮らしやすくてちょうどよいです。子どもたちも、地域の皆さんが顔見知りで声をかけてくれたりして、地域で子育てをしてもらっている感覚があります。ただ、今の下の子の学年は男の子 9 人・女の子 1 人という状況で、この割合のまま小学校・中学校に進むとどうなるのか、少し不安もあります。

**（委員）**：私も本州から来ましたが、景観がよく、ゆったりした生活ができると感じました。人口減少は資料からも見えていますが、町にも子育て施策をしっかり持ってもらい、「この地域は人口を減らさない」という前向きな姿勢で、それに見合った施設を作っていくべきだと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：外から御影に来られた方々は、暮らしやすさや人のつながりに魅力を感じており、景観も含めた暮らしやすさ、帯広や清水役場本庁への近さについてもお話がありました。この御影のよさを PR し、子育て世代の移住をさらに後押しできる可能性があります。人口が減ったとしても、その度合いを緩やかにしていく、というのは皆さんに共通する意見ではないかと思います。

**（委員）**：私たちも御影が好きで戻ってきた世代です。子どもたちにとってちょうどよい町だと感じています。ただ、公民館の話は簡単にはまとまりません。機能を全部揃えられればよいですが、使われていない 2 階の会議室などは省略し、最低限の機能で作った方がよいのではないかと思います。会議室機能は他の施設と共有できますし、改善センターもまだ使えるのであれば、築年数や改修の可否も含めて検討すべきです。この判断のためには、改善センターがあと何年使えるか、世代間交流センターがあと何年使えるか、といった具体的な情報が必要です。そうした情報がないと、他の住民との議論もできません。

**（委員）**：学童は現在、世代間交流センターで実施していますが、同施設が老朽化して使えなくなった場合、学童を小学校に移すのか、あるいは公民館に、宇宙ステーションのように後から増築できる機能を持たせることはできないか、という点も検討できないでしょうか。

**（事務局・コーディネーター）**：建築の手法として、後から取り付けたり取り壊したりできる部分をあらかじめ作っておく、という考え方は他のプロジェクトでも検討しています。人口減少で不要になった機能を、鉄筋部分は残し木造部分は取り壊せるようにする、といった提案です。技術的には可能だと思います。ただ一番難しいのは、どの施設を残し、どこを壊して建て替えるか、という組み合わせの判断です。統合するという方向性の議論はできても、組み合わせのパターンは非常に多く、パズルのようになってしまいます。そのため、まず必要な機能を絞り込んでいきたいと考えています。

**（委員）**：世代間交流センターと改善センターは、どちらも耐震基準は満たしており、修繕すればまだ当分使えると思います。本当に修繕しながら両方の施設を使っていくのか、それとも 50 年を待たず解体して、公民館側に必要な機能をすべて備えた施設を作るのか、その判断だと思います。まだ両方とも使える見込みがあるなら、利用できるところは利用し、縮小した形で公民館機能を作るという考え方もあります。

**（事務局・コーディネーター）**：世代間交流センターは築 35 年、改善センターは築 41 年で、いずれも新耐震基準（昭和 56 年以降）を満たしており、法律上は改修しながら使い続けることができます。一方、公民館・消防署は昭和 56 年以前の建物のため、国から耐震化または建て替えを求められており、今回急いで対応が必要なのはこの 2 施設です。改善センター・世代間交流センターについては、まだ使える状態にあると考えられます。

耐震基準を満たしていない建物を使い続けることへの懸念もあります。基準を満たさない建物を使い続け、万一のことがあった場合の責任問題も含めて、いつまで使えるのかという議論はあります。

**（事務局・コーディネーター）**：20 年ほど前から、耐震化を図るか建て替えるかという指導がずっとありました。消防署に関しては、耐震補強で柱を太くすると必要な面積が確保できず、消防車が入らなくなるため、補強では対応できません。そのため、一刻も早い建て替えが必要というのが現状です。

**（事務局・コーディネーター）**：公民館は築 50 年で雨漏りなどの問題があり、消防も耐震基準を満たさないことを考えると、この 2 施設の建て替えは基本方針になると思います。その際、世代間交流センターや改善センターの機能をどう生かすかが、次の議論になります。世代間交流センターも 35 年でいずれ老朽化するからと大きな施設を一度に作る選択肢もあれば、まずは最小限で作り、既存施設をうまく活用しながら使い方を柔軟に変えていく方法もあります。皆さんで考えていただく次の議論だと思います。

**－資料 9〜10 ページ（検討すべき視点）に関する議論－**

**（事務局・コーディネーター）**：資料 9〜10 ページで示している「検討すべき視点」を改めて確認します。基本機能として支所・消防・多目的ホール・交流ロビー（多世代交流のイメージ）をあげており、それに加えてどのような機能が必要か、というのが論点です。世代間交流センターに機能を残す形もあれば、基本機能だけで建て替える形もあり得ます。御影地区の将来像を考えながら議論していく必要がある、というのがこれまでの意見でした。

**（委員）**：改善センターを使い続けるかどうかは難しい判断だと思います。仮に改善センターと世代間交流センターを使い続けるのであれば、新しい施設は役場支所機能と消防があれば足り、10〜15 年程度の移行期間を見据えて計画してもよいのではないかと思います。

**（事務局・コーディネーター）**：改善センター・世代間交流センターを残して使う「ミニマムタイプ」の考え方に近いと思います。一方で、改善センターも築 41 年でやや古いため、そこも含めて検討するとなると、規模も費用も大きくなります。ここで結論を出すことはできないので、こうしますと一方的に伝えるのではなく、この場で議論した内容を皆さんが持ち帰り、検討を重ねていく必要があると思います。ミニマムであれば概算費用がどの程度か、逆に老朽化が進む改善センターの機能まで含めるとかなりの費用になることも、次回お示しできると思います。

私が機能にこだわる理由は、ミニマムであっても、今日出していただいた「多世代交流」「子育て世代が住みやすい施設」「高齢者が利用しやすい機能」は絶対に外せないと考えているからです。機能が分散しすぎると実現が難しくなるため、広場でのイベントなど、ハードだけでなくソフト面の議論も必要になってきます。

**（事務局・コーディネーター）**：皆さんにお聞きしたいのですが、この地域で新しく家を建てたり、都会に出るという選択肢もあった中で、なぜ御影に留まる、あるいは移住することを選んだのでしょうか。

**（委員）**：共働きの両親のもとで育ち、御影のおじいちゃん・おばあちゃんに預けられていた時期があり、そのときに御影の子どもたちと一緒に遊んだりサッカーをさせてもらったりしました。学区は違いましたが、地域の方々に温かく受け入れてもらった思い出があります。その経験があったからこそ、この地域に恩返しがしたいという気持ちがあり、移住を決めました。また、実務的な面では、妻が教員で転勤があるため、持ち家であるほうが都合がよく、以前住んでいた場所の近くで探していたところ、非常に手頃な土地が見つかった、という経緯もあります。

**（事務局・コーディネーター）**：移住のプロモーションビデオに使えそうなお話ですね。皆さんが感じている御影の温かさや人とのつながりが、まさにこの地域の最大の財産で、それを大切にした複合施設であってほしいと思います。

御影の将来像として、多世代交流、子どもの声が聞こえる、人とのつながりを大事にする、という方向性は皆さんに共通する意見だと感じました。あとは予算規模によって、基本機能だけにするか、それ以上の機能を持たせるかが決まってきます。

**（委員）**：構想の段階でこう言うのは適切ではないかもしれませんが、個人的には、これから先の世代の若者や子どもたちに負担を残したくないので、できるだけコンパクトで費用のかからない施設にしてほしいと思います。財政状況を見ながら、借金をして将来世代に負の遺産を残さないようにしてほしい、という意見です。

**（事務局・コーディネーター）**：以前、札幌市内でコミュニティカフェの調査を 200 件ほど行ったことがあります。その中で印象的だったのが「巣箱」という子育て世代向けの小さなコミュニティカフェで、店内に子どもの遊び場があり、子育て世代向けのイベントも定期的に行っていました。小規模でも十分機能することが分かっています。また厚別中央連合町内会の取り組みでは、大きな施設を 1 つ作るより、小さな子育てサロンを複数開催する方が集まりやすいことも分かってきました。大きな施設でなくても、母親同士が子どもを連れてきて、御影のベテランのお母さんが見守りながら、子育てに疲れた親をケアするような仕組みがあるとよいと思います。

本日大事なポイントとして出てきたのは、御影地区のよさ、人とのつながりや暮らしやすさ、景観といった点です。子どもの頃に御影で育った方が、進学や就職で一度外に出たとしても、自分が子育て世代になったときに「やっぱり御影がいい」と戻ってきたくなるような地域でありたい、というイメージが共有されました。

施設面では、消防・公民館は新設の方向で、改善センター・世代間交流センターとの関係性を今後整理していく必要があります。ミニマムな形で既存施設を改修しながら使い続け、グラウンドや広場を残すという方向性も出ています。

本日の資料にある機能について、明確に不要というご意見はありませんでした。次回は、財政面も考慮した最小限の構成を軸に、多世代交流機能や子育て世代向け機能をどう組み込むかを議論していきたいと思います。ミニマムであっても、御影のよさをさらに高めていくことは十分可能だと考えています。ハード面だけでなく、子育て世代を支えるソフト面の仕組みも合わせて、次回以降検討していきます。

事業費については、公共施設の計画では時間の経過とともに想定金額が上がっていくことが多く、当初 10 数億円規模とされた施設が、設計段階で大きく膨らむ例もあります。次回に向けて、消防に必要な面積などのデータをもとに、機能ごとのおおよその規模と概算事業費をお示しできるようにします。

4 閉　　会

【第2回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会

開催日時:令和8年7月 28 日(火)19 時 00 分～20 時 30 分
開催場所:世代間交流センター
出席委員 :
細田委員長、赤堀副委員長、菅野委員、山方委員、五十嵐委員、川端委員、永田委員、後木委員、長谷川委員、大久保委員、~~宮間委員~~

事務局 :

御影支所 太田支所長(事務局長)、吉田次長(事務局庶務)、大津主査

清水消防署 三好署長(事務局次長)、横山御影分遣所長

企画課 佐藤課長補佐

建設課 山田課長、小笠原課長補佐、野口建築係長

コーディネーター:株式会社 KITABA 酒本

傍聴人 :5人